

イニシアティブ新設科目（開講科目名：女性研究者キャリア論）改善策について

担当教員名【宮坂靖子・本山方子】

①カリキュラムの改善点、②シラバスの改善点、③授業形態の改善点、④配布資料の改善点、⑤学生への対応の改善点、⑥TAのあり方の改善点、⑦その他の改善点などの観点項目を参考にご自由にお書きください。

① カリキュラムの改善点

授業の構成や内容は概ねこのようなものでよいと思う。授業時間が15時間しかないため、内容をこれ以上ふやすことはできない。

② シラバスの改善点

ゲストスピーカーの選定の仕方について、現在就職活動を継続している助手の先生を含めたり、女性ばかりでなく男性の先生にもお願いし、複眼で重層的な視点から女性の研究職キャリアを考えられるようにする必要がある。また女性研究者は大学の教員に限られるものではないので、今後は民間企業に務める女性研究者などに対象を拡大することを検討する必要がある。

③ 授業形態の改善点

学部を限らず多様な専門領域の先生方から体験談を聞いたことは大変よかった。今後も引き続きロールモデルとなる本学の女性の先生方に体験談を伺わせていただいたり、アドバイスを受ける機会を設けて行きたい。また、グループワークの際の班分けの仕方について、専門を考慮するなど議論が活発化するような班分けの工夫が必要だと思った。

④ 配布資料の改善点

適宜授業のレジュメや資料を配付したり、関連情報の提供を行ったことはよかった。

⑤ 学生への対応の改善点

毎時間学生に質問してもらう時間を、活発な質疑応答が行われた点は評価できず。グループワークの際に、教員がもう少ししかかわってモデレーターの役割を果たしたり、学生のグループ作業の成果に対する質疑応答の時間をより長く設定するようになる必要がある。

⑥ TAのあり方の改善点

TAはよく業務をこなしてくれ申し分なかった。しかし業務内容が、授業の準備や記録に偏っていたため、今後は、大学院の先輩としての経験を還元してもらえる機会を作りたい。

⑦ その他

授業開講についての周知が不十分であった。イニシアティブ科目であるが、授業の内容から受講を全専攻に拡大した。学生への開講に関する情報の提供は、イニシアティブのガイダンスで行った。掲示等を行わなかったため、結果的にイニシアティブ専攻以外の学生に対して、開講に関する情報を提供することができなかった。このことは大きな過失であったと反省している。来年度はガイダンスの他、掲示による周知を図りたい。

また身近な先生からの体験談は、今まで女性ということでは不利益を感じたことのない学生にも研究者の世界にあるジェンダー問題をより共感的に認識してもらうことができよかった。学生の中には、「女性研究者」と「女性」が冠されることの疑問がいくつか出されたが、女性研究者の置かれた状況や授業の主旨への理解をより深めてもらう時間をもっと必要であると感じた。